

- 平成23年に就農した新規就農者について、**早期経営安定を図るため**、栽培技術の課題を整理し、生産性の向上、低コスト化、作業効率化等について、普及所、試験場、農林総合研究所で**サポート体制を作り支援した**。
- 事例のなかった隔離バッグ栽培への取り組みにより、平成25年度の単位面積当たり収量は町平均対比102%まで向上した。

### 具体的な成果

1. **技術改善により単位面積当たり収量が向上した。**

H23年産(慣行栽培)	町平均対比	61%
H24年産(隔離栽培)	町平均対比	78%
	(前年対比)	131%
H25年産(隔離栽培)	町平均対比	102%
	(前年対比)	124%

2. 県内で事例のない夏秋トマトの隔離バッグ栽培について、サポート体制の中で課題の整理と改善策の検討が行われ、栽培技術の向上が図られた。

**【主な課題と対策】**

■ **生育に応じた管理技術向上**

→ **給液マニュアルの改善**

■ **単位面積当たりの収量向上**

→ **栽植密度、整枝方法の改善**

■ **上位段の着果率向上**

→ **全段ホルモン処理の徹底**



隔離バッグ栽培のハウス

### 普及員の活動

1. 普及員の提案により普及所、技術普及室、園芸試験場日南試験地で**サポート体制を作り、新規就農者へ対応した**。

2. 栽培検討会を栽培期間中に3回(6月、8月、9月)開催し、生育状況の診断と当面の管理について指導した。

3. 栽培終了後、営農検討会を開催し、本年の栽培の反省点について検討を行い、来年に向けての改善策をサポートチームで共有した。また、**低コスト化、作業効率化等、経営改善に向けた検討**も併せて行った。

4. 技術確立に向けて、県内外の先進的類似事例の視察を行った。

### 普及員だからできたこと

1. **関係機関(技術普及室、園芸試験場日南試験地)との連携によるサポート体制を構築した**。

2. 隔離栽培(トロ箱)を行っている**県外の試験場や、養液栽培を行っている法人の情報**を収集し、視察を企画した。

3. 営農の継続のためにはコスト低減が必要と考え、**バッグから廃コンテナ利用を提案し、実用の目途をつけた**。併せて**廃コンテナの調達先を紹介した**。